



IORI SUPPORTERS

IORI SUPPORTERS

2020 シーズン活動報告
2021 シーズンに向けて 決意

| はじめに

2018年1月25日。皆様は何の日かご存知でしょうか？

それは、IORISUPPORTERS が設立された日です。



2019年1月 IORISUPPORTERS 新年会

この3年間で延べ50人程のサポーターが IORISUPPORTERS に入って下さり、未熟者である私「木村偉織」のレース活動の為に貴重なご支援を頂いて参りました。この後援会が始まる前から仲良くして下さいました方もいれば、この後援会を通して出会った方もいて、この後援会を通して新しい世界を知ることが出来たという大変ありがたい声を頂きました。2020年は新型コロナウイルスにより今まで当たり前に出ていたことが出来なくなり、より一層日常のありがたさに気づいたと共に、自分の人生観が大きく変わり、自分の大好きなレース活動との関わり方も変わりました。今回はそんな激動の2020年の活動報告を振り返りつつ、新たな時代である2021年に向けての抱負・決意を、ここに記して行きたいと思っております。

| 念願の SRS からの参戦と立ちはだかるプレッシャー

私が後援会を始める1番のきっかけとなったものである、SRS。

鈴鹿サーキットレーシングスクールと言われ、佐藤琢磨校長先生を筆頭とする日本で最も成功したレーシングスクール、いわばレース界のハーバードのような存在であります。このスクールで優秀な成績を残すとホンダの育成に入ることが出来、スクールという名前ではあるものの実質ホンダ育成に入るためのオーディション。「世界のトップを目指す若者だけが集う少数精鋭のプロフェッショナルドライバー」を養成するもので、入るためにもいくつもの審査があり、全て突破しなければ入れないもの。

SRS に挑戦するまでは、プライベートとして4輪のレースを取り組んでおりましたが、カートとは比べ物にならないレベルの資金が必要という現実にも迫られてしまい、「SRS でホンダの育成に入ることしかレースを続ける方法はない」という状況がありました。



2018年11月 鈴鹿サーキットレーシングスクール 最終選考

しかし、スクールを受けるためにかかる費用は450万円。そんなお金は当然なく、でも夢を諦めたくなく始めたのが後援会でした。

オーディションではロゴも貼ることも出来ないですし、観客も勿論来ない、そんな状

況ではスポンサーなんて100%付かない。当時18であった自分でもはっきりとわかりました。そんな状況の中どのように資金を集められるか、色々な方々に相談をし、辿り着いた答えは「小さな応援を集めて大きな支援に」というものでした。後援会を立ち上げるにあたり、もしリターンも無い物に誰が金を出すのか！と批判されたら、もし入会してくれる人が誰もいなかったら、など不安を抱えながらのスタートでしたが発足1年目で200万円近く集まり、2年目では約300万も集まりました。3年目である昨年は実質4月までしかレース活動を行えず、本格的なご支援のお願いは時代の流れもみてご遠慮させて頂いていたのですがそれでも150万円近くのご支援を頂くことが出来ました。本当にありがとうございます。話がそれてしまいましたが、そのような経緯もあってなんとか皆様のお陰で受けることが出来たSRS。周りのドライバーは毎週プライベートテストで鈴鹿サーキットに足を運ぶ中、練習する予算なんて当然無く、毎回ぶっつけ本番で受け、沢山の失敗をし、こいつ練習なんかしないで余裕こいているなと思われたり、辛いことばかりでレースやめたいと何度も思ったことがありますが、それでもやはりレースが大好きで、諦めたくなくて、そんな状況と気持ちで挑んだSRSになんとか受かることが出来、この2年間皆様と共に歩んできた思いも背負っていることもあり、来年のステップアップの為に今年は絶対に絶対に結果を残すと意気込んでいた2020年春でした。



FIAF4 2020年3月 岡山国際サーキットテスト

ホンダの育成での契約金 950 万円も、順調にスポンサー活動が行ったこともあり、また、後援会の皆様のご支援のお陰もあり、2 回に分けての支払だったもののうちの 1 回目をスムーズに支払うことが出来ました。そしてテストの方もはじめは周りのドライバーと比べ遅れを取っておりましたが、チームに馴染むごとにタイムアップ。結果的にはほぼ毎セッションチーム内トップを快走出来る状態まで自分とチームと車のコンディショニングを合わせこみ、万全な状態で挑んだニューシーズン。この 2020 シーズンが始まるのが本当に楽しみで楽しみで仕方ない状況でした。

| コロナ禍によるレース参戦中止・eSports との出会い

そんな開幕も、新型コロナウイルスにより延期。

レース再開の目処も立たず、SRS コチラレーシングとしての 2020 シーズンの FIAF4 参加中止を発表。ドライバーには中止になるかもという連絡は全く無く、急な決定でこのような結果を言い渡されてしまい、最初は何にも手に付かずただ茫然とぽっかり穴が開いてしまったような日々を過ごしておりました。その頃、F4・スーパーGT・スーパーフォーミュラ・スーパー耐久と日本国内全てのレースが中止になっただけでなく、F1 をはじめとする全てのレース界がストップしたこのタイミングで、レース界を少しでも盛り上げようとレーシングゲームを使ってプロドライバー同士が対決するエキシビジョンマッチのようなものが世界各地で開催されました。日本も例外ではなく、いくつかの eSports エキシビジョンマッチが開かれ、その中でもインタープロトシリーズの eSports バージョンである、インタープロト e シリーズのエキシビジョンマッチに当時トレーニングで使用していたシミュレーター、ZENKAIRACING.com のものを使い参戦しないか？という連絡を頂きました。

しかし、当時この 1 本の連絡から、レースロスにより生まれた大きな穴が埋まり、むしろ溢れかえるような出来事になるとは思いもしませんでした。今までのバーチャルでのレース経験はレース仲間と楽しみながら個人的にやる程度のものであり、YouTube ライブで多くの人に見られながらというものは初めての経験でした。初めて参戦した esports レースの結果は、クラッシュによるリタイアと散々。eSports なんてスポーツじゃない！リアルの方が絶対いいと、絶対リアルレース信者だった僕はエキシビジョンマッチにてその結果だったときに感じた物凄く悔しい気持ちにスポーツ性があると実感、今後の市場性やトレンドなどを多くの人に見聞きし、これは継続的に参戦しなければ勿体ない。直感的にそう感じました。右も左も分からずただ可能

性のみを感じて終わってしまったエキシビジョンマッチ後、ZENKAIRACING.com の林代表と色々語り合い、レースがない今シーズンはインタープロト e シリーズ IPeS に参戦しようと決め、そこからシーズン前半戦はひたすら eSports に打ち込みゼンカイで突っ走り続けておりました。

IPeS エキシビジョンマッチ eSports との出会いはここからでした



レースが終わった 5 日後には ZENKAIRACING.com e-Sports Team 立ち上げ。その 10 日後には IPeS 開幕戦で結果は優勝&スポンサー1 社追加、翌月にはレース参戦 &スポンサー2 社追加、池袋 eSports 拠点追加、6 月もレースに参戦しドライバー1 名追加。7 月のレースでは eSports チームとして初めてワンツーフィニッシュを果たすことができました。少しでも走りやすい環境でレース出来るように、フィードバックのパラメータを調整。eSports Team を使ってどんなことができるのか、チームとしてのビジョンや、ゴールはどうするのか林代表と朝まで事務所に打ち合わせをしている日々でした。

そして決まった ZENKAIRACING.com e-Sports Team のビジョン

「リアルでも速く、バーチャルでも速く、観る人に新しい可能性と感動を与える」

参戦するドライバーはみんなリアルも速く、リアルのレースにも参加。このビジョンの実現のためにも後半戦更に気を引き締めて頑張りたいと思いました。

またレースが無かった前半戦では知り合いにカートとエンジンを貸して頂き、昔からずっとお世話になっているレーシングファクトリーアオヤマの青山さんに教えて頂きながらカートを1から人生で初めて組みました。今までのメカニックさんの有難さを実感できることが出来たとともに、自分が出来るトレーニングの全てを行いました。eSports チームのメンバーとリアルレースやっているライバルと共に、トレーニングを行い、レーシングカートとシミュレーターの2本立てでステイホーム期間を乗り切りました。



人生で初めてカートを組む。青山さんご指導ありがとうございました

| インタープロト e シリーズ特別戦へ・GT 通訳での見学

4月から始まったIPeSも気づけば後半戦。訳も分からず参戦していたエキシビジョンマッチから前半戦、多くを学び気づけばランキングトップを快走しておりました。この春eSportsチームを設立したことがきっかけとなり、ZENKAIRACING.comも法人化、より一層本格的に稼働して行くことになり、少しずつシミュレーター関係で納品やメンテナンス・海外への窓口とお仕事を頂けるようになって行きました。また、eSportsチームのチームディレクターに正式に任命され、チームレベルの底上げを目指し、データロガーをソフトにリンクさせ実際のレースの時のように走り进行分析し、他のチームのドライバーにアドバイスをしたり、レースの戦術を伝えたりして行

きました。その甲斐もあり、後半戦ではほぼ毎回トップ5にはZENKAIという体制を築きあげ、日本のeSportsレーシング界ではZENKAIRACINGという名前を大きく広めることが出来ました。

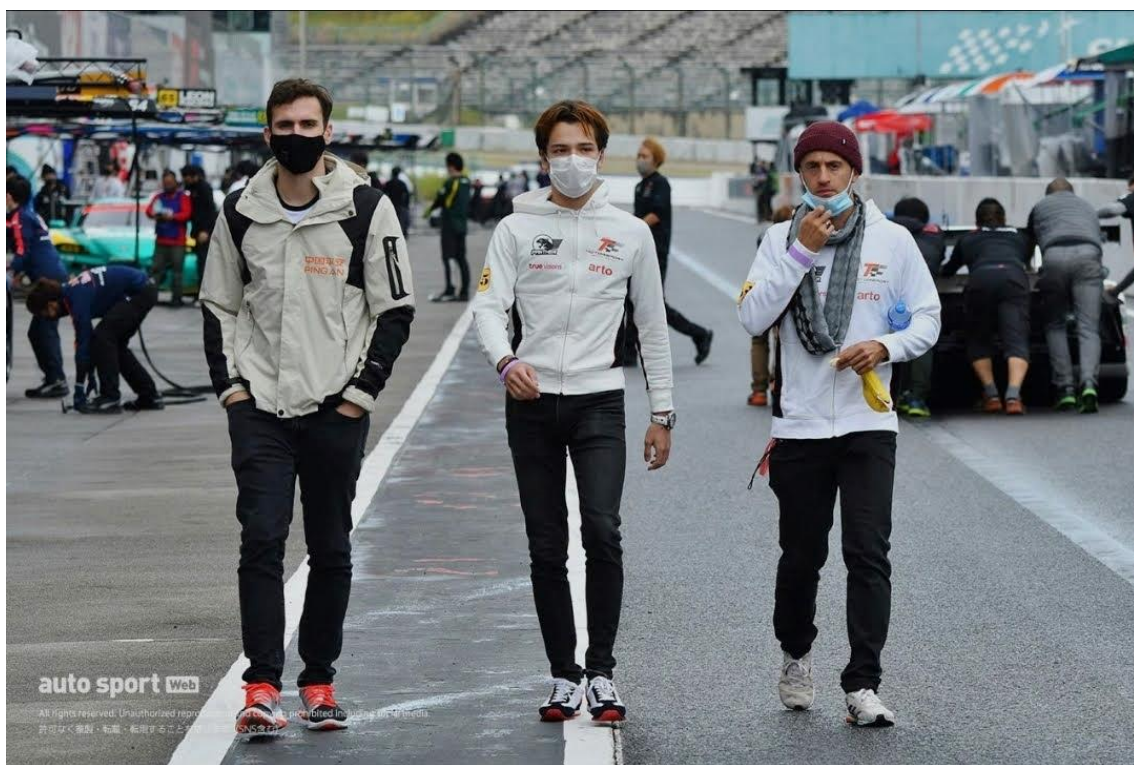


IPeS 鈴鹿大会 ZENKAIRACING 初のワンツーフィニッシュを果たす

レース自体は最終戦まではトップを維持していたのですがラスト2レースはラグというeSports特有のトラブルに見舞われ、それまでチャンピオンは安泰だったポイント差も急激に差を詰められ、結果的にはランキング2位という形でシーズンを締めくくりました。その時林代表は別件の仕事で姫路へ、渋谷の事務所で参戦していた僕はレース後シミュレーターから降りることが出来ず、たったひとりカーボン製の硬いシートの中涙を流しながら座っておりました。この悔しさは今でもはっきりと覚えており、忘れられないものです。

チャンピオンは逃してしまったものの、富士スピードウェイにてインタープロトシリーズの最終戦と同じ日、同じ舞台で行われる本当のスペシャルマッチ、IPeS特別戦のチケットをランキング2位であった為手に入れることが出来ました。全く新しいMODと全く新しい筐体いつもよりも少ないインフォメーションのシミュレーターで慣熟するには難しく、オフライン練習では総合2番手だったタイムも伸び悩みスタートでは2台抜き、そして半周に渡る横並びでのバトルによりレースを盛り上げることは出来ましたが、オンラインサーバーではずっと苦しい展開のレースでした。オンラインとオフラインで車の挙動が変わるのもeSportsの難しさの一つであることを実感しました。今回初めて参戦したIPeS。シーズン中はチームでシリーズランキングトップ3を独占していたことがあったにも関わらず、特別戦では私一人だけの出場、レー

ス自体も結果は残せず、非常に残念ではありましたが、全く見ず知らずの世界に飛び込みこのような結果を残せたことは一個人としても、チームディレクターとしても誇りに思い、僕についてきてくれたチームメイトには本当に感謝の気持ちで一杯です。あの IPeS 特別戦というステージに1年目で立たせて頂いた事は、自分自身の視野が拡がり更なる修行を重ねなければならないことも学べ良い経験が出来ました。また eSports だけではなく、9月頃から外国人ドライバーが来日出来るようになったこともあり、レースが出来なかった僕に、スーパーGTの通訳のお仕事を頂けるようになりました。来日されたドライバーは2人。チームのミーティングやレース中の無線や移動などあらゆる場面で一緒に帯同しました。2人のうちのひとりルマン24時間ウィナー、しかも1回だけではなく3回も獲得したプロドライバー。プロの仕事振りを間近で見ることが出来、物凄く勉強になりました。この経験も来年のレース活動と eSports 活動に活かすことが出来ると確信しました。



スーパーGT 鈴鹿 コースウォークにて

| 2021年 新たな時代に向けての決意

4年と長く感じていた大学生活もあと残すところ僅か1年。自分が明治大学経営学部に入り学びたいと思ったもの、それは「経営者の視点」です。当時、後援会を立ち上げる前、高校3年生だった時。家庭的な経済事情によりレースを続けることが出来なくなり、スポンサー活動をせざるを得ない状況になった際、経営者の視点がわかった

らどんなにいいのだろうと思ったことが多々ありました。普通当時の私のようなレベルの若手ドライバーは両親から支援を受けてレースをするのが当たり前という世界。先輩ドライバーからは片っ端から企業を訪問し、数を打てば当たるという作戦でやればスポンサーはつくよというアドバイスを貰ったものの、学生で毎日学校に行き、放課後は宿題という日々を過ごしていた僕には到底不可能な物。その中で若手にお金を出してくれる企業はなにを期待してお金を出してくれるのだろうか。そんなことをひたすら考える日々でした。また大学に入った理由がもう一つ、レーサーになれなかった時の保険です。プロのレーシングドライバーや、プロを目指す若手ドライバーで大学に行っている人はほとんどいません。しかし、全員が全員レーサーになれない。もしなれなかったときは一体どうなってしまうのか。そのようなリスクを回避するためにに入ったという理由がありました。しかし、2020年、新型コロナウイルスにより全くレースが出来なくなってしまったとき、私はどんなことがあろうとプロのレーシングドライバーになる。その決心が固まりました。例えなれなかったとしてもこのレース業界が心から大好きですし、ここ以外で仕事をしたとしてもこれ以上の生き甲斐や充実感を感じられない、もっともっとレースを頑張らなきゃ、自分が大好きなレースを諦めてはいけない、続けなければいけないと感じました。



シュミレータートレーニングの様子

2021年の目標。

それは FIAF4 選手権チャンピオン獲得。そしてバーチャルレースでの活躍。

2020 シリーズの IPeS での実績が買われ、2021 年から開催される通常はスーパ

ーGTなどに参加しているプロドライバーしか参加出来ないIPeSプロクラスへの参戦権を手に入れることが出来ました。賞金総額は300万を超え、グランツーリスモなどのゲームとは異なるリアルなシュミレーターソフトでの初のプロeスポーツレースへの参戦を果たすことが出来ました。その他でもBMWが主催するSIM GT CUPに参戦したりと、とにかくあらゆるeSportsレースに参戦する予定です。

また、まだ決定ではなく、水面下ではありますがFIAF4だけではなくピレリスーパー耐久をメルセデスAMG GT4車両での参戦しないか？との話も頂けており、今年はレース活動に更に力を入れる体制づくりをしていかなければと強く感じました。

後援会の方ではどのような活動をしていきたいのか、現時点では3つの応援プランをご用意しようかと考えております。1つ目は、従来のものと同じではありますが、純粋に私の活動に関して気持ちで応援して下さる形での応援プラン。皆様から頂いたご支援は100%全てレース活動の方に使わせて頂くものであります。そして2つ目のものは、買って応援プラン。ファンが増えてきたこともあり、まだどのような形にするのか未定ではございますがオリジナルグッズを作成しようかと考えております。こちらは頂いたご支援の一部をグッズの材料費に使わせて頂くものなので100%とはなりません、オリジナルグッズを着て一緒に応援するという体験が出来るかと思いません。そして3つ目はみんなで応援プラン。頭にクエスチョンマークが浮かんでいる方も多いかと思いますが、ZENKAIRACING.comの林代表とのご協力により渋谷の事務所にて月1回程のペースで4~5名ほどで食事をしながらレースを振り返る「小さな懇親会」のようなことが出来ればと思います。以前は新年会のように大きなスペースを貸し切り、パーティーを催すようなことも出来ましたが、そんなことも中々出来なくなってしまい、皆様に直接お会いし、お礼を言うことが難しい状況となってしまいました。しかし、この「小さな懇親会」によって今まで以上に近い距離で深いお話が出来ると共に、事務所にはシミュレーターがあるので本物のレーサーが運転しているところを間近で見ることが出来ます。普段見られないドライビングを実際に見られると鳥肌が立つこと間違いなしだと思います。そのような形で今年は3つの応援プランで今までにない新しいよりパワーアップしたIORISUPPORTERSを作り上げられるように頑張りたいと思います。

またZENKAIRACING.comの活動の方ではチームディレクターとしてのチームレベル底上げ、またいくつかの海外製デバイスのアジア地域正規代理店を行うこととなりましたので、その販売促進のためにアジア地域のeSportsシリーズに積極参戦。日本初新型4軸フルフローティングシミュレーターの開発とSNSマーケティングを行って参りたいと思います。その他にはSIM営業、eSports Team スポンサー活動、SNS運用、SIM組立て・セッティング、SIM納品サポートも行う予定です。

そして、今年からスポンサーシップ活動の方では従来通りのブランディング効果や節

税効果だけではなく、eSports を利用したブランディング施策を行いたいです。
また、コロナ禍におけるソーシャルメディアの更なる注目度の上昇・発展を加味しまして、スポンサーであるライズ&シャイン合同会社のサポートのもと、木村偉織のメディアチームとしてソーシャルメディアコンテンツを提供することとしました。国内のモータースポーツ界では、まだ新しい取り組みとなりますが、他の広告媒体と比較しても比較的安価でいいパフォーマンスを発揮出来るコンテンツを作成できる企画となっており、これらを利用し更にスポンサーシップ活動を積極的に行って参りたいと思います。今後後援会の皆様には私の媒体を活用して頂き、こうしたスポンサーとしてのビジネス的な面でも一緒に何か出来ていければいいなと思います。

| おわりに

さてここまで、そんな激動の 2020 年の活動報告を振り返りつつ、新たな時代である 2021 年に向けての抱負・決意を、ひたすら黙々とパソコンの画面と向き合い、タイピングをし、記して参りました。

ここまで来られたのは皆様のご支援のお陰であり、本当にこの後援会がなければここまで来ることも出来なければ、心から大好きであるレース活動を続けることすら出来なかったかもしれません。本当にありがとうございました。

本年も全力全開で 2021 年を駆け抜けて行きたいと思います。

新型コロナウイルスにより昨年なんとか契約に結び付けることが出来たスポンサーは継続であった予定だったものの全滅。レース年間予算の約半分が突如として無くなってしまいました。例年以上に資金繰りが厳しくなると感じております。目を背けたくなるような状況ではありますが、しっかりと受け入れスポンサー活動を頑張りたいと思います。

このような時代の状況でお願いするのは大変心苦しいですが、
本年もこの IORISUPPORTERS に皆様ご支援頂けたらと思います。
今年も応援よろしくお願い致します。

長くなってしまいましたが最後まで目を通して下さりありがとうございました。

大学のレポートではいつも文章を考えるのに時間がかかる上、既定の字数に到達することが出来ず、毎回なんとか引き延ばして提出という程の文章が書くのが苦手な僕ですがここまであつという間に書き進めて参りました。自分が年長のときからずっとブレずに取り組んできたこのレースに対して純粋な真っ直ぐな気持ちで、文章に表すのは初めてであり、これが書き終わるいま皆様に自分が思っていること、伝えたいこと

がどのくらい上手く伝わっているのかわかりませんが不思議と達成感に満たされています。執筆を終え、今週はスーパーGTの通訳の仕事のため富士スピードウェイ、そして来週はF4のテストのため岡山へ。仕事終わりの夜中、遠征先のホテルにてひとり、じっくりと今シーズンに向けてのスポンサー集めの戦略を考えながら眠りについているでしょう。

このような状況下でも、レースに携わるお仕事を頂けていること、そして何よりIORISUPPORTERSの皆様、人と人の繋がりに感謝しながら、今シーズンも一步一步踏みしめながら歩んで参りたいと思います。

IORISUPPORTERS - 木村偉織

以下の木村偉織ソーシャルメディアへのフォロー・登録もぜひ宜しくお願い致します
Instagram @iori_kimura_ Twitter @ioriracing Facebook 木村偉織